

みんなで生き方を考えよう！

文責：道徳主任

道徳教育だより 6月号

上赤 義人



道徳教育は、ご家庭の理解と協力があってこそ、より大きな成果を得ることができます。是非、ご家庭でも食を通して、様々なことを話し合ってみてください。



田原中学校では、子どもたちの豊かな心の育成を目指して、毎週1時間の道徳の時間を中心に、学校全体で様々な場面で道徳教育に取り組んでおります。本年度の様々な取組を今後お知らせしていきます。

「私たちが、食べているものは、地球のどこかで誰かが多くの苦勞をして作ったり、育てたりしていると思います。感謝の気持ちを込めて、『いただきます』と言って、大切な命をいただくことが、大事だと感じました。」これは、道徳の授業あとのある生徒の感想です。

5月30日（月）に行われた「弁当の日」の取組から、担任の先生を中心に道徳の授業がつけられていきました。例えば、「いのちをいただく」と題して、「食」と「生」を見つめ直しながら、命の重みや動物への感謝などについて考えさせる授業がなされました。また、「食べることは人と人のかかわりを味わうこと」から食と人との関わりを考えさせました。さらに、弁当づくりで生徒一人ひとりが感じた思いについて、クラスで話し合おうとする授業もありました。ある授業で活用した資料を下に紹介します。

このように、道徳の時間を中心にしなが、心を育てようと日々、先生方はいろいろと取り組んでいます。道徳の時間を通して、先生から生徒たちへ、心のプレゼントが渡されているのです。



● 家族が弁当作りを手伝ってくれようになるのを断れた人は、独り立ちしていく力のある人です。

● 食材がそろわなかったり、調理を失敗したりしたときに、献立の変更ができた人は、工夫できるひとです。

● かすかな味の違いに調味料や隠し味を身抜けた人は、自分の感性を磨ける人です。

● 旬の野菜や魚の、色彩・触感・味わいを楽しめた人は、心豊かな人です。

● 一粒の米、一個の白菜、一本の大根の中にも「命」を感じた人は、思いやりのある人です。

● スーパーの棚に並んだ食材の値段や賞味期限や原材料や産地を確認できた人は、賢い人です。

● 食材が弁当箱に納まるまでの道のりに、たぐさんの働く人を思い描けた人は、想像力のある人です。

● 自分の弁当を「おいしい」と感じ「うれしい」と思った人は、幸せな人生を送れる人です。

● シャケの切り身に、生きていた姿を想像して「ごめん」が言えた人は、情け深い人です。

● 登下校の道すがら、稲や野菜が育っていくのをうれしく感じた人は、慈しむ心のある人です。

● あるもので作る「できたものを食べる」ことができた人は、たくましい人です。

● 「弁当の日」で仲間がふえた人、友だちを見直した人は、人と共に生きていける人です。

● 調理をしながら、トレイやパックのゴミの多さに驚いた人は、社会をよく考えていける人です。

● 中国野菜の値段の安さを不思議に思った人は、世界をよく考えていける人です。

● 自分が作った料理を食べる家族を見るのが好きな人は、人に好かれる人です。

● 「いただきます」「ごちそうさま」が言えた人は、感謝の気持ちを忘れられない人です。

● 家族がそろって食事をすることを楽しいと感じた人は、家族の愛に包まれた人です。

● 手順よくできた人は、給料をもらう仕事にいたときにも、仕事の段取りのいい人です。

『泣きみそ校長と弁当の日』竹下和男 他 より